太陽、青空とともに成長して

福本尚子

鳥取県

福本尚子さんは、とにかく忙しい人だ。登録手話通訳者、NPO職員、ハローワーク手話協力員、全通研鳥取支部前事務局長・地区の運営委員、スポーツクラブ保護者会の役員、妻、母、いくつもの役割を果たしながら、手話と共に成長してきた。

夫の和巳氏はろう者で、近くの機械工場に勤め、ろうスポーツの世界で活躍する。デフリンピックのバレーボールでは日本代表を経験した。現在は、鳥取県ろうあ者チームの監督、コーチ兼選手で活躍している。

手話サークルで出会い、結婚。子どもは２人、長男の太陽、長女の青空を授かる。波乱のドラマがありそうだが、にっこり笑って軽くいなされてしまった。

職場はNPO法人コミュニケーション支援センターふくろうで生活支援を専門に行っている。「ふくろう」は鳥取聾学校ひまわり分校の中にあり、県、14市町村から手話、聴覚障害者に関わる委託事業を受け活動している。

ひまわり分校では、小学部児童を対象に「放課後子ども教室」が年72回ほど開かれている。元気いっぱい部屋に来る子どもたちは目にもとまらない速さの手話で話し続ける。福本さんの眼差しはどこまでもやさしい。夏休みにもこの取り組みは続けられる。

「ふくろう」事業のひとつである聴覚障害者の「ミニデイサービス」は、毎回、仲間（利用者）たちが心待ちにして集い、生きがいにつながる大切な場となっている。

昨年まで全通研の鳥取支部事務局を務めていたのだが、今年度からは役職を降りた。

「子どもたちは、私のお腹のなかにいたときから会議や活動に参加してきて、生まれてからは乳母車、少し大きくなってからは会議室の隅っこの椅子の上と、ずっと付き合ってきてくれました。小学校生活も残りわずか。目標に向かいがんばる子どもたちを見ていたら、今が恩返しの時との決断だった」と話す。手話、全通研活動は子どもの成長と共にあった。太陽君はミニバスケット、青空さんはバレーボールに取り組む。バレーボールは夫が監督を務め、夫婦で関わることになった。

趣味は小学１年生の時から取り組んでいる書道。現在、年に数回開かれる展覧会に向けて作品作りをする。